

2026 年 8 月 21 日

【SUPER GT 第 5 戦 / 鈴鹿サーキット】 大会直前情報



8 月 22 日(土)、23 日(日)の 2 日間、鈴鹿サーキットで 2026 年 SUPER GT 第 5 戦が開催されます。シーズン折り返し地点となる今大会に、GT500 クラス 1 台、GT300 クラス 17 台、計 18 台がヨコハマタイヤを装着して挑みます。

6 月に予定されていた第 3 戦マレーシア大会が世界情勢を鑑みて延期となったことで、今大会はシーズン 4 戦目の争いに。なお、延期になった第 3 戦は、シーズン最終の第 8 戦もてぎ大会の週末に組み込まれ、2 レース制となることがすでに発表となっています。

鈴鹿サーキットは全長 5,807m と国内最長の距離を持つサーキットで、大きく 8 の字を描くレイアウトが特徴です。2006 年から 2017 年までは鈴鹿 1,000km レースが SUPER GT のシーズン戦に組み込まれ、まだまだ暑さの厳しい 8 月下旬に熱く長い戦いが繰り広げられてきました。鈴鹿 1,000km がいったん幕を閉じた後は、一時 450km という距離で行われたこともありますが、ここ数年は他のサーキット同様に 300km というレース距離になっています。

今年 2 月、鈴鹿サーキットは西コースの路面が改修され、新しい舗装になりました。新しいアスファルトが敷かれた西コースは路面の色も濃く、同じ日照時間でも路面温度の上昇具合が変わる可能性があります。また、新しい舗装はミクロの次元で見るとまだまだ路面がならされておらず、走りこんだ路面と比べるとタイヤに対する攻撃性が高いことが特徴です。



GT500 クラスでヨコハマタイヤを装着する WedsSport BANDOH GR Supra は、今大会を前に鈴鹿サーキットでテストを行いました。あいにくの雨に見舞われ、ドライコンディションで走行できたのは限られた時間となりましたが、そのデータを基に、ゴムの強度が高いタイヤを今大会に持ち込んでいます。夏場の高温、さらに新舗装という難しい条件も乗り越え、テストで得た経験を味方に最後までしっかりとレースを戦いきることを目指します。

GT300 クラスに関しても、テストでのデータを基に路面改修によるタイヤへの攻撃性の高さと高温を考慮した対策を施してきました。供給車種の多い GT300 で、それぞれのチームがベストなレースを繰り広げることが期待されます。

8 月上旬に行われた第 4 戦富士大会に続き、厳しい暑さが予想される一戦。国内屈指のサーキットに挑むヨコハマタイヤ勢にご声援をお願いいたします。